

2004.04.27：循環型まちづくり調査特別委員会

委員長

ありがとうございました。

それでは、協議に入ります。皆様方のお手元に前回までの開催経過をまとめた資料と委員会報告書案をお配りしておりますので、それらを参考にしていたきながら、これまでの委員会におけます当局からの報告事項また参考人からの意見聴取及び他都市視察を踏まえまして、本委員会の調査テーマであります、「新エネルギーの有効利用について」及び「ごみ減量・リサイクル等について」御意見をお伺いしたいと思います。

なお、過日委員会報告の方向性につきまして、皆様方と打ち合わせをさせていただき、委員の皆様には多くの御意見をいただきましたが、その中で市民の方々に対する呼びかけ、問題提起といたしまして、「新エネルギーの課題と方向性について」及び「循環型社会を進めるための、市民への呼びかけについて」委員の皆様方のお考えをいただくということにいたしておりましたので、この2点を中心にきょうは御意見をいただきたいと思います。それではどなたでも結構ですので、御意見のある方から御発言願います。

振り返って見ますと、2年間はごみ減量の方をメインにやってきまして、今度は新エネルギーをやるということで、委員長報告のときに何か提言的なものという安孫子委員からの御意見を受け、それではどうということが提言できるのかということで、皆様には御協議いただいたと思います。ですから、いろんな意見をいただきながら付け加える部分は正副委員長並びに皆さんに諮って相談し、まとめていきたいと思っています。しかし、新たな御意見がなければ従来の委員長報告の形もとれるのかなと、そういう意味でぜひ皆さんから意見をいただきたいと思います。

委員長　それでは、今の2点に対します御意見の方は終了させていただきます。

次に、委員会報告についてであります。この委員会報告は次の定例会、第2回定例会で行うこととなりますけれども、お手元に委員会報告書案を配付してございますけれども、これに本日皆様からいただきました、さまざまな意見がございました。

新エネルギーの課題と方向性、また循環型社会を進めるための市民への呼びかけについて出された御意見等を整理し、報告書に織り込むということでその取りまとめにつきましては、正副委員長に御一任をいただきたいと思っておりますけれどもよろしいでしょうか。

## 委員長

それでは、そのようにさせていただきます。この際委員の皆さんから先ほども申し上げましたが、この調査特別委員会はきょうが最終となりますので、渡辺委員から順にいろいろ意見があれば出していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

## 池田友信委員

それではきょうのテーマも含めて意見を申し上げたいと思います。

一つはですね、議会と当局は車の両輪とよく言われておりますが本当にそういう形で対応しているのか、していこうとするのか。きょうは環境局しかきておりませんが、少なくとも議会が特別委員会として設定をして、きょうが最後のまとめの委員会ですから、いままで論議し、該当された質問の中で出てきた部局、ガス局、経済局も来ました。きょうは本来ならばこれは委員長が指名したのかもわかりませんが、むしろ当局側で最後のまとめの会議にぜひ代表者を委員長に入れてくれというくらいの積極性が私はあっていいのではないかと、そうすべきではないかと私は思います。そういう中で当局が各委員のどんな意見を出して、どんなまとめなのか、それをぜひ受けとめて、それをこれからの市政運営に反映するという姿勢が私は必要ではないかと思えます。特に、先ほどから論議されているように、仙台市が環境先進都市を掲げる以上この環境問題については大変重要な政策のひとつですから、ぜひそういう部分での積極性が必要だということと、こういった特別委員会や常任委員会のあった後にどれだけ執行部にその委員の意見が反映されているのかなと感じます。新局長に問題提起をしたいと思えます。

二つ目に、市民に呼びかける今回のこの循環型の中で、私は二つあると思えます。一つは環境的な問題に対して市民に呼びかけて、お互いに協力をすると、環境が悪くなる、こういうことをすると環境がよくなるということの呼びかけが一つあると思えます。もう一つは財政的な問題があると思うんですね。こんなことをしたら財政的に非常に負担がかかりますと、無駄ですと。先ほどのポイ捨ての話は私は単なるモラルの問題ではなくて、これには税金がかかっているんですよと、いままでこれだけのポイ捨てによる道路清掃をすればこれだけの費用がかかっているんですよと。市民の皆さん無駄だと思いませんかという呼びかけはしていないんですね。単なる清掃活動の費用という形で出されますが、具体的に市民に呼びかけるためにはやはり環境問題と同時に財政的に無駄だと、こういうことをひとついかに結びつけるかということが一つ。それから確かに環境を悪くするのが先ほどから論議されている、車の話があります

が、これも環境問題と経済活動との裏腹なんですね。地方都市の中で、やはり公共機関がないから市民が税金を出して、車の料金を払って、ガソリン料金を払って、そして経済活動をやっていると、経済効果があるんですよ。先ほど安孫子委員が言っているように電気自動車はなかなか経済活動は難しいと思うんですよ。仙台市の経済活性化のために何とか経済活動を活発にしてほしいと言っている割には車はそういう意味で経済活動に私は貢献しているという部分をどういうふうに見るかということをしないと、何か悪者扱いではなくて、市民はお金を払って経済活動をしていると、これをどういうふうに理解していくかということ、できればクリーンなガス車に替えてくださいというような形をお願いをすることでですね。それを今、車を使っているのはだめだというのではなくて、経済活動をどれだけ見てると言われると思うんです。ですから市民に努力をしてもらおう部分と、我々がそういった経済活動に貢献している部分をどう判断していくかということと呼びかけていかないと間違った形になると思います。

三つ目には、新エネルギーの問題を考えてみたんですが、外部の新しいエネルギーの開発努力を期待して、そして導入をして、公共のこの自治体が設備投資をして、新エネルギーを開発してやるのもひとつ努力が必要です。これにはお金がかかります。財政的に負担がかかります。しかしよく考えていただきたいのは、現在有している仙台市の施設の中で、本当にエネルギーが無駄になっていないのかと、無駄に使っていないのかと、あるいはエネルギーを十分に開発しているのかと、仙台市の施設の中でね。私はその中の一つとして、ガス局でいうと800億も設備投資したガス局が有している低エネルギーマイナス160度というのは、無駄に海水をかけてそして液を気化にしてやっているわけですよ。その間のそのマイナス160度というのは無駄なエネルギーになっているんですよ。前にも話しましたが、空気をマイナス160度にすれば、窒素と酸素の化合物ですから、自動的に窒素と酸素が分離されてできるわけです。そういう部分があるし、先ほどの建設局の話もありましたが、下水の中で新しいエネルギーを開発するとか、あるいは環境局だって、清掃工場では焼却するとエネルギーが出てますが、本当に温水プールだけでいいのかと、こういう部分を各局が考えなくてはいけないんじゃないかなと。要は、エネルギーを有している部局、エネルギーを使う部局、エネルギーを開発する部局と私は三つあると思うんですよ。開発する部局は環境局もあるでしょうし、経済局なんかもあるだろうし、建設局だって下水道局だってガス局だって、交通局だって新しい感覚からいったら走っているあのエネルギーを何らかの形で蓄電するか何かという方法も私はあってしかるべきだと思うんですが、そういった当局内部での検討というものを通常業務でやっていくことが今のところ目一杯なん

ですね。それは新しい分野ですからとてもじゃないけどその辺に手が回らないというのが現実なんです。ですからその辺をどういうふうに考えていくのかなということをこれから市当局がもっと論議をすることが必要ではないかなというふうに思います。したがって新しいその新エネルギーを導入することもさることながら、もう一度自分たちで使っているエネルギーとか有しているものとかそういうものが無駄なく効果的に発揮しているのかということをもっと研鑽する必要があるなということが私のいろいろ今回1年間やってみて感じて、もっと具体的にこれは問題提起をした方がいいのかなと思って、また別の機会に質問させていただきますが、それでは環境局が各局を取りまとめるのかというと環境局が他の局に対してあなたのところ無駄はないかと言えないわね。今の執行部体制ではね。その辺は仙台市の執行部の中で新しく各局長が論議をして全庁的な形の中で検討する、そういったものを考えていけないと思いますし、議会がこれだけ特別委員会を設置してやっているということ、ぜひそういう意味では当局の方も受けとめて御論議をいただきたいというのが私の意見でございます。